

法政大学大学院  
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	公共政策研究科 サステナビリティ学専攻 修士課程《一般》	2026年度 第2回
小論文		

《解答又は解答例》

問1 「タバコ戦略」とは、タバコ産業が自らの経済的利益を守ることを目的として、タバコの健康被害に関する科学的知識の確立や社会的認知を妨げるために用いてきた一連の手法を指す。

その目的は、タバコががんなどの重大な健康被害を引き起こすという科学的事実を曖昧化し、規制や社会的批判を回避することであった。

その手法としては、タバコ以外の発がん性物質に関する研究を支援して注意をそらすこと、タバコの有害性を示す証拠の不確実性を強調し「さらなる研究が必要だ」と主張すること、さらに業界から資金提供を受けた科学者を通じて疑念を拡散することなどが挙げられる。

その結果、タバコの健康リスクに関する社会的理解は長期にわたって遅らされ、人々の無知が意図的に作り出され、維持される状況が生み出された。

問2 本文が示すように、環境問題やサステナビリティをめぐる科学的知識においても、産業やメディアの影響によって無知が社会的に作られる場合がある。このような現実を前にして、市民は科学を無条件に信頼するのも、逆に全面的に疑うのでもなく、科学的知識がどのような社会的条件のもとで生み出され、伝えられているのかに注意を向ける必要がある。

たとえば気候変動をめぐる議論では、少数の懐疑的意見がメディアによって「公平」に扱われることで、科学的合意が十分に形成されていないかのような印象が生まれてきた。市民は、個々の主張だけでなく、研究資金の出所や専門家の位置づけ、科学的合意の程度といった点にも目を向けるべきである。

そのうえで、科学の不確実性を理由に判断を先延ばしにするのではなく、現時点で最も妥当と考えられる知識に基づいて行動し、必要に応じて見直していく姿勢が、サステナビリティの観点から重要だと考える。

《出題の意図》

問1 長文の日本語の文章の読解を通じて、著者の主張や論理の展開を適切に把握する能力を測るとともに、語句や表現に対する正しい知識を有しているかを問うことを意図した出題です。

問2 長文の読解を通じて、筆者の論旨や議論の構造を正確に把握できているかを確認するとともに、その内容を踏まえた上で、自らの考えを整理し、適切に表現する力を測ることを意図した出題です。